

(様式3)

農業研究成果情報

No. 745 (平成28年5月) 分類コード 05-07 熊本県農林水産部

いぐさ品種「涼風」の畳表製織時の適正加湿量

「涼風」(系統名:有明7号)の畳表製織時の加湿量は14%から12%の範囲が適当である。

農業研究センターい業研究所加工・機能性研究室(担当者:湯野康博)

研究のねらい

早刈作期向け品種「涼風」は、生産性の高い品種として有望である。製織する畳表は生産効率が高く、やや明るい色調であることが報告されているが、本試験で製織時の適正加湿量を明らかにする。

研究の成果

1. 長茎(茎長120cm以上)を使用した麻経糸一種畳表(JAS規格)では、やや多い16%の加湿で製織すると畳表の色調や品位、苳面が劣るので、加湿量は14%から12%の範囲で製織する必要がある。(図1)

2. 中茎(茎長105~120cm)を使用した綿経糸三種畳表(JAS規格)では、やや多い16%の加湿で製織すると畳表の色調、品位が劣るので、加湿量は14%から12%の範囲で製織する必要がある。(図2)

普及上の留意点

1. 供試畳表は、い業研究所で栽培した平成27年産早刈りいぐさ(7月6日収穫)を使用して、平成27年10月1日(天候:曇り、平均気温:24.0℃)に製織したものである。
2. 加湿量はいぐさの重量比で行ったものである。
3. 参考として、品種「ひのみどり」の適正加湿量は約14%である。
4. 畳表製織に当たっては「畳表加工技術改善マニュアル」を参考に、季節・天候等に合わせ加湿量を調整する。

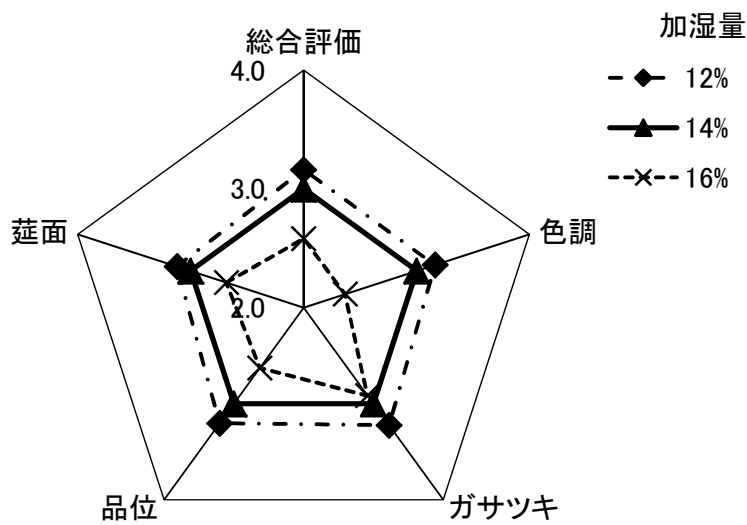


図1 JAS麻一種畳表評価

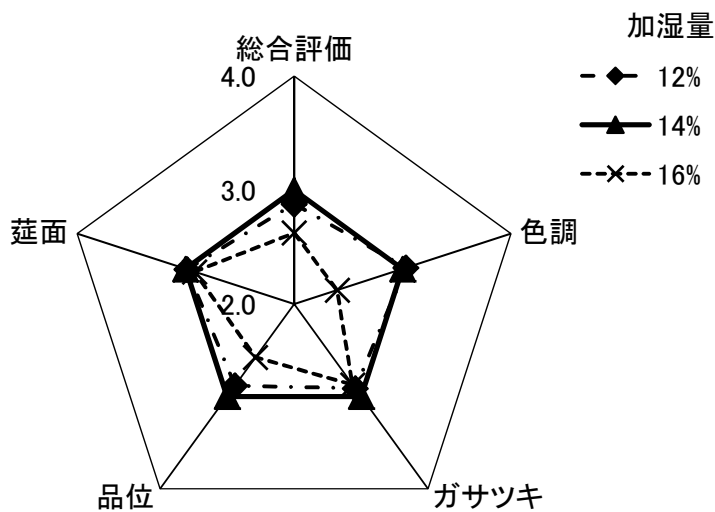


図2 JAS綿三種畳表評価

※い業関係技術者11名により、14%で加湿した畳表を基準評価点3点として、品質の劣るものを1点、やや劣るものを2点、やや優れるものを4点、優れるものを5点で品質評価を行った。評価日：平成27年10月9、16日。